

意見書案第7号

(和光市議会)

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会において子供たちに広く参加する機会を設けることを求める意見書

上記の意見書案を和光市議会会議規則第14条の規定により提出します。

令和元年12月16日

和光市議会議長 吉田 武司 様

提出者 和光市議会議員

賛成者 和光市議会議員

待鳥 美光

守保 友博

齋藤 克己

猪原 陽輔

赤松 祐造

鳥飼 雅司

川嶋 智子

松永 靖恵

萩原 圭一

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会において子供たちに広く参加する機会を設けることを求める意見書

オリンピック・パラリンピック競技大会は、世界各国のアスリートが参加する世界最大級のスポーツの祭典である。この大会に国民がボランティア等として参加することは、国際理解を推進するとともに、大会に関わる多くの人々と一丸となって大会を作り上げる感動を体験する貴重な機会ともなる。

1964年の東京大会では、オリンピックの開会式において小学生による鼓笛隊の演奏が行われた。また、パラリンピックの開会式において小・中学生によるバトン鼓笛隊が選手の入場行進を先導するなど、子供たちが参加し、活躍する機会が設けられていた。

一方、来年に迫った東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京 2020 大会」という。）において広く一般に募集していたボランティアは、2020年4月1日時点で満 18 歳以上という年齢制限があり、小学生、中学生及び高校生は応募することができなかった。

また、2016年12月に東京都と公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（以下「組織委員会」という。）が策定した「東京 2020 大会に向けたボランティア戦略」では、「多様な人材の活躍を促進していくことが重要である」として、「次世代を担う若い世代がボランティア活動を体験できるよう、被災地を含む中学・高校の生徒の学校行事や部活動等による参加」や「各種セレモニー等への出演や競技運営におけるサポートなど、大会における児童・生徒の活躍の場」について検討していくこととしているが、現時点において検討結果は示されていない。

東京 2020 大会に子供たちが参加することは、国際感覚を養い、国際理解を深め、さらには共生社会の理念を広める絶好の機会であり、教育的な観点からも大きな意義がある。

よって、国においては、東京都及び組織委員会に対し、東京 2020 大会においては、保護者の同意があれば子供たちが広く参加できる機会を設けることを働きかけるよう強く要望する。

以上、地方自治法第 99 条の規定に基づき意見書を提出する。

令和元年 12 月 16 日

埼玉県和光市議会

衆議院議長
参議院議長
内閣総理大臣
総務大臣
文部科学大臣

大島 理森 様
山東 昭子 様
安倍 晋三 様
高市 早苗 様
萩生田 光一 様

東京オリンピック競技大会・

東京パラリンピック競技大会担当大臣

橋本 聖子 様